



今月の「クリルちゃん」

日焼けクリルちゃん

「蝉時雨（せみしぐれ）」 蝉の合唱
が一段と暑さを感じクリル(汗)

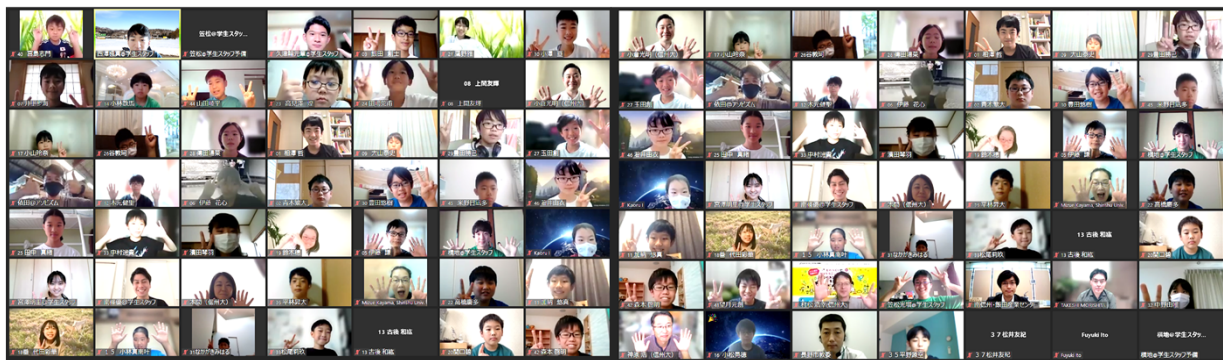
学びセンター通信の第11号をお届けします。
今号も学びセンターの最新ニュースなどをお伝えします。

第4期ジュニアドクター育成塾開講

長野県内外の小学校5年生から中学校3年生まで46名が参加し、9か月間ものづくりやプログラミング、実験などを学んでいくSTEAM教育プログラムである信州大学ジュニアドクター育成塾の第4期が7月23日（土）より開講しました。

ジュニアドクター育成塾事業は、国立研究開発法人科学技術振興機構による「科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材の育成に向けて、理数・情報分野の学習などを通じて、高い意欲や突出した能力を有する小中学生を発掘し、さらに能力を伸長する体系的育成プランの開発・実施を行うことを支援」するためのもので、信州大学は2019年から実施しており4年目となります。信州大学は教育学部が主体となって実施しているため教育的な視点が強みです。これからの社会に求められる教科横断型の問題解決能力に焦点を当て、大学と自治体や企業が連携して進めていきます。

開講式では受講生と担当大学教員に加え、長野県、長野市、飯田市、アソビズムの方々にもご参加いただき、開講に向けてのお言葉をいただきました。その後は、Google Classroomの使い方、micro:bitの使い方について講座を開催しました。受講生からは生き生きと意欲的に取り組む姿が見られました。今後の活躍が楽しみです。（小倉光明）



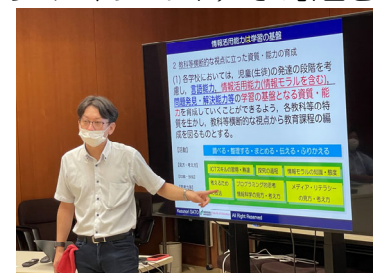
育成塾
Webサイト
↓

信濃教育会合宿研修会

8月9日に信濃教育会の「新しい時代の教育」研究調査委員会で、学びセンターが研修を担当しました。情報活用能力が学習の基盤として学習指導要領に位置付けました。その情報活用能力を育成・発揮しながら「主体的、対話的で深い学び」を実現すること、そのためのインフラがGIGAスクール構想による1人1台の情報端末となります。これを前提に、本研修会では、まずは「主体的、対話的で深い学び」を分解し、「主体的」に着目した上で、情報端末を活用することを前提に「子供が主体的に活動できるようになるため」のカリキュラムマネジメント、その計画をしていただきました。

学校では、そもそも1時間の授業場面のみで子供の主体性を育てているわけではありません。朝、登校し、教室に入った時から家に帰るまで、さらには家庭学習の場面など、実に様々な場面で主体性を発揮させようと指導しています。もちろん情報活用能力のみで子供が主体的になるはずがありません。学級経営や生徒指導、教師や児童生徒同士の関わり、知識・技能の取得や学び方の学ぶこと等、多岐にわたります。教師は、それぞれの場面でモデリング・ティーチングを基本としながらもスカフォールドやフェーディングの段階を経て、子供たちが自分で判断できる力を育てています。その中の一部がICTや情報活用能力だと捉えることができますし、基本のインフラですから、日常的に子供たちの活動（授業場面以外でも）を、子供が判断して活用されていく必要があります。参加者の先生方は、多面的・多角的に日常を振り返り、子供が主体になるまでの道筋を真剣に考えられていたことが印象的でした。

（佐藤和紀）



昨年度、本センターで実施した 「教育DXお悩み相談室」のまとめと分析について

本センターでは2021年4月から2022年2月にかけて継続的にGIGAスクール構想に関するお悩み（課題意識）に対する相談会を、ゲストスピーカーをお招きしながら進めてきました。ここで寄せられたお悩みについて、今後の研修や支援で活用できるよう、長期的な課題意識の変遷として、整理・分析し、日本教育工学会のシュートレター論文で投稿しております。具体的にはGIGAスクール構想における初期・中期・後期段階の課題意識について、情報端末の運用および活用に関する視点でその質的変換を把握しました。その結果、小・中学校では初期、中期で運用と活用に関する課題意識が5割程度あり、後期段階から活用に関する課題意識が6～7割程度に高まることが把握されました。また、教育委員会では、中期段階から活用に関する課題意識が7割程度に高まっていることが把握され、学校現場よりも一歩早い段階で見通しを持った課題を把握している傾向がみられました。記述内容から、小・中学校の運用に関する課題は、ネットワーク環境やセキュリティに関する内容も多く、教員だけでの解決が難しいものも多く確認されました。主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、教員は活用に関する課題の解決に十分な時間を割く必要があります。本センターとしても、これらの結果から今後の適切な支援を検討していきたいと思っております。（小倉光明）

今年もやっています！教育の情報化自治体支援事業

本センターでは、長野県内の自治体を主な対象に、教育の情報化自治体支援事業を行っています。教育DXに関わるご相談や各種研修・講演会等での講師をお引き受けし、長野県内の教育の情報化に取り組んでいます。

飯田市教育委員会様と喬木村教育委員会様には、年間を通じた継続的な研修支援のご用命をいただき、昨年度（2021年度）に引き続いて本センターとの受託事業契約を締結しました。飯田市の学校では、ICT活用教育の推進役となる中核教員を対象とした研修会・相談会をオンラインにて実施しました。また、喬木村の学校では、2小学校・1中学校にそれぞれ本センターの教員がお邪魔し、授業参観及び研修会での指導・助言を行いました。

写真は、7月に行われた喬木村第二小学校でのオンライン授業参観・研修会の様子です。

へき地・小規模校が抱える「複式学級指導でのICT活用」をテーマに、本センターと学校が、子ども達のためにより良い授業づくりを一緒に考える第一歩の研修となりました。

当事業は年度内を通じて随時募集中です。ご興味・ご関心などがありましたら、本センターまでお気軽にお問合せください。（森下孟）



信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター

TEL：026-238-4242 メールアドレス：crilofc@shinshu-u.ac.jp

Webサイト：<https://cril-shinshu-u.info/>

GIGAスクール県内サポートサイト

長野県内のさまざまなGIGAスクール情報をお届けしています。

Webサイト：<https://cril-shinshu-u.info/giga/>

